

(様式1)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の
重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成29年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名	北海道	番号	01
-------	-----	----	----

推進地区名	協力校名	児童生徒数
遠軽町	遠軽町立遠軽小学校	158

○ 実践研究の内容

1. 推進地域における取組

(1) 本実践研究を適切に行うための推進体制

本事業関係者や学校力向上に関する総合実践事業（注1）の管理職、PTA関係者等で構成した「学力向上推進協議会」を開催し、推進地区及び協力校に対する指導助言や本実践研究の成果等の検証を行った。

・第3回学力向上推進協議会：平成29年 5月10日（水）

・第4回学力向上推進協議会：平成30年 1月30日（火）

(2) 推進地域としての支援策

① 教育課程・指導方法に係る指導助言

・推進地区、協力校に対して、「平成29年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」及び全国学力・学習状況調査の調査結果を詳細に分析することができる「分析ツール北海道版」（注2）を提供し、調査結果に基づく分析資料の作成を支援し、協力校の学力向上に係る課題を明確化した。

・協力校に対して、平成29年度全国学力・学習状況調査結果で明らかになった課題を踏まえた検証改善サイクルの確立に係る指導助言を行うことにより、課題解決の具体的な取組を支援した。

・協力校に対して、授業の冒頭における学習課題の提示や学習課題と正対したまとめを行うことや、学習課題の質の向上を図ること、終末の場面におけるまとめや振り返りを位置付けることなど、授業改善の促進を働きかけた。

・学習規律の徹底など、学校全体での組織的な学習環境の整備に関わる指導助言を行った。

・北海道独自の問題「ほっかいどうチャレンジテスト」（注3）を「北海道学力向上Webシステム」（注4）で配信し、分析結果から児童一人一人のつまづきを把握し、課題の解決に向けた取組が促進されるよう働きかけた。

② 家庭や地域との協働関係の構築

・「平成29年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告」及び「分析ツール北海道版」を提供し、全国学力・学習状況調査の分析結果や改善方策、学力及び生活リズムに関する明確な数値目標など、保護者や地域住民に分かりやすく説明し、課題を共有する取組

を推進するよう指導助言を行った。

- ・「生活リズムチェックシート」（注5）を活用し、望ましい生活習慣等の確立に向けて指導助言を行った。

③ 推進地区及び協力校への指導助言の充実

- ・協力校に対し、指導主事による学校訪問の回数を充実し、授業参観及び指導内容・指導方法等についての指導助言を行った。（延べ7回訪問）

2. 推進地区における取組

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

- ① 道教委が作成した「分析ツール 北海道版」を活用し、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、年間を通じた学力向上の取組を推進した。
- ② オホーツク教育局と連携して、協力校において、全国学力・学習状況調査の自校採点結果と児童質問紙の回答を関連付けて分析し、学習指導の成果と課題を明らかにするとともに、実効性ある取組を推進するよう指導した。
- ③ 全国学力・学習状況調査等の結果と児童の実態を踏まえ、学力向上に向けた具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けた有効な取組の推進など、検証改善サイクルを確立するよう指導した。
- ④ 自校の取組や先進地域の視察の成果発表を行うよう指導した。

(2) 学習指導の充実

- ① 授業の冒頭における学習課題の提示や学習課題と正対したまとめを行うなど、児童の学力向上を図る指導過程の確立に向けた取組を推進できるよう先進事例等を提示した。
- ② 校長会議・教頭会議において、全ての小・中学校における学習規律・生活規律の作成を促し、定期的に成果と課題を把握し、定着を図るよう指導した。
- ③ 授業内容との関連を図った宿題の具体例を提示するなど、家庭学習の取組の充実を図ることができるよう支援した。
- ④ 「生活リズムチェックシート」を活用した生活習慣の確立に向けた取組について支援した。
- ⑤ 9年間を見通した各教科等の年間指導計画や学習規律の作成について支援した。
- ⑥ 効果的な取組の成果の発表となる公開研究会の開催に向けて支援した。
- ⑦ 全国学力・学習状況調査の結果から成果が現れている地域の小学校を視察し、協力校における課題解決の取組の柱として「学習規律の徹底」「学び合いや伝え合いの位置付け」「検証改善サイクルの確立」の3つを位置付けた。

- ・福岡県北九州市（平成29年9月14日） 北九州市立永犬丸西小学校、北九州市立若松中央小学校

(3) 成果の普及

1年次の取組を踏まえ、平成29年12月15日に、オホーツク管内の全小・中学校を対象にした公開研究会を実施した。全学級で授業が公開され、これまで協力校が進めてきた研究課題について、参加者との協議・意見交換を行い、2年次における成果と課題を明らかにするとともに、協力校における取組の状況を推進地区全体に発信した。

3. 協力校における取組

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

① 全国学力・学習状況調査の分析

- ・調査終了後、学級担任・教務・教頭が自己採点を実施し、各教科及び児童質問紙調査の結果分析を行い、全教職員で課題を共有した。また、調査結果を踏まえ、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。

② 「分析ツール北海道版」の活用

- ・分析ツールを活用し、詳細な分析を行うとともに、全国学力・学習状況調査問題の中で正答率の高かった問題と低かった問題を校内研修で解き、児童がつまづいている内容を確認し、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。

授業改善の具体的な視点と数値目標に基づき取組を進めた。

③ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の実施と分析

- ・北海道教育委員会が定期的に配信している全てのチャレンジテストを、授業のまとめに位置付けて実施した。テストの結果については、「北海道学力向上Webシステム」等を用いて分析した。

④ 学校評価による検証

- ・学校評価を年間複数回実施し、成果と課題を明らかにした。

⑤ 児童の授業評価による検証

- ・児童の授業評価を年間2回実施し、成果と課題を明らかにした。

(2) 学習指導の充実

① 1単位時間の構成の見直し

- ・1単位時間の中で、知識・技能を定着させるために、授業の構成の見直しを行い、「学習課題とまとめの明記」「板書と関連付けたノート指導」「学習内容を振り返る活動の位置付け」の3点を重点に取り組んだ。

② 言語活動の充実

- ・各種調査の結果から、全体的な傾向として、自分の考えを定められた字数で説明するなどの記述式の問題の正答率が低いことや、国語科の「話す・聞く」領域において全国の平均正答率との差が大きいなど、自分の意見を相手に正しく伝えることに課題が見られることから、研修のテーマを「多様な手段を使って伝え合い、豊かに表現できる児童の育成」とし、言語活動を位置付けた授業改善を推進した。

③ 学習規律の確立

- ・新年度に学級担任が替わると学習用具のきまりや発表方法などの学習ルールを新たに覚えることから学習が始まる実態が見られたことから、全教員で学習規律を見直すとともに、学習規律を定着させる取組として、「学習用具の精選」「児童の机上の整理」の2点を重点に指導した。
- ・学習に必要な用具や机上に置くもの、置く位置などについて全教職員で共通理解を図り、指導内容を視覚化するなどして指導を徹底するとともに、各家庭にも学級通信や学級懇談会で呼びかけ、学校と家庭が一体となって取組を進めた。

④ 家庭学習・放課後学習の充実

- ・個に応じた支援については、一斉授業における取組だけではなく、授業以外の取組として、「家庭学習の取組の充実」「放課後学習会の実施」「夏季・冬季休業の学習サポートの実施」の3点を実施した。

- ⑤ 「生活リズムチェックシート」の活用
- ・児童の家庭での規則正しい生活リズムの定着を図るため、「生活リズムチェックシート」の活用を学校通信等を通じて各家庭に呼びかけた。
- ⑥ 学校教育指導（コンサルティング）による指導主事の定期訪問
- ・オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班の定期訪問において、指導主事がコンサルティングを行うとともに、授業参観、研究協議における指導助言、ミニ講座の実施、授業におけるティーム・ティーチングの実施等を通じて、取組の充実を図った。
- ⑦ 先進校の視察
- ・全国学力・学習状況調査において、「全国平均を上回っている」「前年度と比較して格段に伸びている」などの成果が現れている地域の小学校を視察し、各種学力調査等の細かな分析、学習規律の徹底、1単位時間の授業過程の統一、学び合い・伝え合いの実施について本校の取組に生かした。
- (3) 成果の普及
- 1年次の取組を踏まえ、平成29年12月15日にオホーツク管内の全小・中学校を対象にした公開研究会を実施した。全学級で授業公開、参加者との協議・意見交換を行い、2年次における成果と課題を明らかにするとともに、効果的な取組についての情報を発信した。

○ 実践研究の成果

1. 協力校における取組の成果

(1) 全国学力・学習状況調査による検証

① 教科に関すること

- ・平成29年度全国学力・学習状況調査において、国語A B、算数A Bとも全国の平均正答率を上回ることはできなかったが、平成27年度と比較し、国語Aで+14.5ポイント、国語Bで+22.8ポイント、算数Aで+16.1ポイント、算数Bで+3.0ポイント改善した。
- ・「全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合」については、国語Aでは25.1%、国語Bでは42.2%、算数Aでは14.0%減らすことができた。

② 児童質問紙に関すること

- ・「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたか」の質問で、約8割の児童が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答しており、授業改善の取組の成果が見られた。

(2) 全国学力・学習状況調査及び「ほっかいどうチャレンジテスト」等の結果の分析・考察

- ・協力校における平成29年度の結果は、第1～6学年の2回で、24教科中6教科で全道と同じもしくは全道を上回り、13教科で全道平均との差が1ポイント以内となり改善が図られた。

(3) 学校評価、児童の授業評価等による検証

- ・学校評価において、平成28年度は、13項目中「概ね達成」できたのは、1項目であったのに対し、平成29年度2回目（12月実施）では、全ての項目で「概ね達成」することができた。

(4) 授業公開等による検証

- ・授業では、これまで授業に集中できていなかった児童も学習に向かう姿勢がよくなり、

学習意欲の向上が図られた。

- ・漢字や計算などの基礎的な学習内容の定着を図ることができただけでなく、苦手な内容を克服できたことで自信を深め、学習に意欲的に取り組む児童が増えた。

2. 実践研究全体の成果

- 定期的に学力向上推進協議会を開催し、推進地域、推進地区、協力校代表者等で取組の進捗状況、成果や課題を共有したことにより、継続的な学校訪問による推進地区及び協力校に対するきめ細かな支援を行うことができた。
- 協力校による公開研究会（研究成果発表会）を実施したことにより、推進地区及び協力校の取組の成果等を広く普及することができた。
- 各種調査等の結果の分析により、課題を明らかにするとともに、学習規律の統一や言語活動の充実などについて取り組むことができた。
- 全国学力・学習状況調査や「ほっかいどうチャレンジテスト」に関する数値目標を設定し、検証を行うとともに、学校評価、児童アンケート等を活用し、成果と課題を明確にすることができた。

3. 取組の成果の普及

- 公開研究会等を開催し、学力向上の取組や成果を普及した。
 - ① 「第3回北海道学力向上推進協議会」（平成29年5月10日（水）、参加人数：9名）
 - 内 容：全学級授業公開、今年度の取組についての説明及び協議
 - 会 場：遠軽町立遠軽小学校
 - 参加対象：北海道教育委員会担当者、遠軽町教育委員会担当者、遠軽町立遠軽小学校管理職及び担当者
 - ② 「遠軽町立遠軽小学校公開研究会」（平成29年12月15日（金）、参加人数：49名）
 - 内 容：全学級授業公開、全体会、研究協議
 - 会 場：遠軽町立遠軽小学校
 - 参加対象：北海道教育委員会担当者、遠軽町教育委員会担当者、管内小・中学校教職員、遠軽町立遠軽小学校教職員
 - ③ 「第4回北海道学力向上推進協議会」（平成30年1月30日（火）、参加人数：12名）
 - 内 容：全学級授業公開、先進地域・先進校視察報告、今年度の取組についての説明及び協議
 - 会 場：遠軽町立遠軽小学校
 - 参加対象：北海道教育委員会担当者、遠軽町教育委員会担当者、遠軽町立遠軽小学校管理職及び担当者、管内の小・中学校管理職及び教諭、管内の教育委員会職員、保護者・地域住民等

○ 今後の課題

- ・本実践研究の取組の成果を、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果から検証する必要がある。
- ・全国学力・学習状況調査問題や「平成29年度全国学力・学習状況調査 北海道版結果報告書」、

「授業アイデア例」（国立教育政策研究所）等を積極的に活用し、授業改善を推進する必要がある。

- ・「ほっかいどうチャレンジテスト」を繰り返し活用し、児童一人一人の課題を踏まえ、学習内容の確実な定着を図る取組を継続的に進める必要がある。
- ・推進地区及び協力校の取組の成果を域内の小・中学校と共有し、域内の各学校において、学力向上の取組の充実を図る必要がある。
- ・推進地区及び協力校の取組をW e b ページで紹介するなど、成果を普及する必要がある。

(注1) 「学校力向上に関する総合実践事業」

- ・管理職のリーダーシップの下で学校改善を推進することにより、当該校から将来のスクールリーダーを輩出する新たな仕組を構築するため、道教委が指定する実践指定校において平成24年度から実施している事業

(注2) 全国学力・学習状況調査の「分析ツール北海道版」

- ・道教委が作成した、各市町村や学校が、自らの結果を詳細に分析できるよう、レーダーチャート、下位層の状況、学校間のばらつきなどのデータが簡単に作成できるツール

(注3) 「ほっかいどうチャレンジテスト」

- ・各学校や家庭において学力向上や学習習慣の改善に向けた日常的に取り組みやすい資料として、学期ごとの学習内容や、本道の児童生徒が苦手としている内容等を踏まえた国語、算数・数学、理科、社会の問題
- ・平成21年度から継続して作成し、道教委W e b ページに掲載

(注4) 「北海道学力向上W e b システム」

- ・チャレンジテストの実施から集計・分析までの時間が短縮され、全道・管内と比べた自校の基礎学力を入力と同時に把握することができるとともに、集計結果を活用して、子どものつまずきに応じたきめ細かな指導や放課後等の補充的な学習サポートの充実などに生かすことができるシステム

(注5) 「生活リズムチェックシート」

- ・子どもの望ましい生活習慣等に対する関心や意欲を高め、その改善と定着することをねらいとして道教委が作成
- ・家庭での生活時間などを記入し、生活の様子を振り返ることができるもの

(様式2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の
重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成29年度委託事業完了報告書

【推進地区】

都道府県名	北海道	番号	01
-------	-----	----	----

推進地区名	遠軽町
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組内容

1. 研究課題

- (1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立について
 - 各種調査等の結果の分析による学習指導の成果と課題の把握
 - 学習指導の課題の解決に向けた具体的な手立ての共有
 - 教員及び児童生徒による授業評価による手立ての検証
- (2) 学習指導の充実について
 - 授業の冒頭におけるめあての提示及び終末における振り返りの徹底
 - 授業のねらいを達成する言語活動の設定
 - 学習規律・生活規律の定期的な評価と検証
 - 家庭学習の充実を含めた家庭での生活習慣の確立
 - 9年間を見通した各教科等の年間指導計画の作成
 - 学習指導の成果と課題を明確にする小・中学校における日常的な授業交流、小中合同研修会の実施

2. 研究課題への取組状況

- (1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立
 - ① 道教委が作成した「分析ツール 北海道版」を活用し、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、年間を通した学力向上の取組を推進した。
 - ② オホーツク教育局と連携して、協力校において、全国学力・学習状況調査の自己採点結果と児童質問紙の回答を関連付けて分析し、学習指導の成果と課題を明らかにするとともに、実効性ある取組を推進するよう指導した。
 - ③ 全国学力・学習状況調査等の結果と児童の実態を踏まえ、学力向上に向けた具体的な数値目標を設定し、目標達成に向けた有効な取組の推進など、検証改善サイクルを確立するよう指導した。
 - ④ 自校の取組や先進地域の視察の成果発表を行うよう指導した。
- (2) 学習指導の充実
 - ① 授業の冒頭における学習課題の提示や学習課題と正対したまとめを行うなど、児童の学力向上を図る指導過程の確立に向けた取組を推進できるよう先進事例等を提示した。

- ② 校長会議・教頭会議において、全ての小・中学校における学習規律・生活規律の作成を促し、定期的に成果と課題を把握し、定着を図るよう指導した。
- ③ 授業内容との関連を図った宿題の具体例を提示するなど、家庭学習の取組の充実を図ることができるよう支援した。
- ④ 「生活リズムチェックシート」を活用した生活習慣の確立に向けた取組を支援した。
- ⑤ 9年間を見通した各教科等の年間指導計画や学習規律の作成について支援した。
- ⑥ 効果的な取組の成果の発表となる公開研究会の開催に向けて支援した。
- ⑦ 全国学力・学習状況調査において、「全国平均を上回っている」「前年度と比較して格段に伸びている」などの成果が現れている地域の小学校を視察し、協力校における課題解決の取組の柱として「学習規律の徹底」「学び合いや伝え合いの位置付け」「検証改善サイクルの確立」の3つを位置付けた。

【視察地域】

・福岡県北九州市（平成29年9月14日） 北九州市立永犬丸西小学校、北九州市立若松中央小学校

(3) 成果の普及

1年次の取組を踏まえ、平成29年12月15日に、オホーツク管内の全小・中学校を対象にした公開研究会を実施した。全学級で授業が公開され、これまで協力校が進めてきた研究課題について、参加者との協議・意見交換を行い、2年次における成果と課題を明らかにするとともに、協力校における取組の状況を推進地区全体に発信した。

協力校の取組や先進地域の視察の成果を発表する場面を設定した。

【協力校の会議等への出席】



第8回	平成29年5月10日	第3回学力向上推進協議会開催(今年度の取組内容と今後の取組に向けて)、全学級授業公開
第9回	平成29年6月14日	オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事による学校教育指導及び授業交流
第10回	平成29年7月7日	オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事による学校教育指導及び授業交流
第11回	平成29年9月14日	先進地域視察（北九州市立永犬丸西小学校、若松中央小学校）
第12回	平成29年9月26日	文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官視察 オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事による学校教育指導及び授業交流
第13回	平成29年12月7日	オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事による学校教育指導及び授業交流
第14回	平成29年12月15日	管内公開研究会の実施
第15回	平成30年1月30日	第4回学力向上推進協議会開催（今年度の取組の成果、今後の課題について）、全学級授業公開

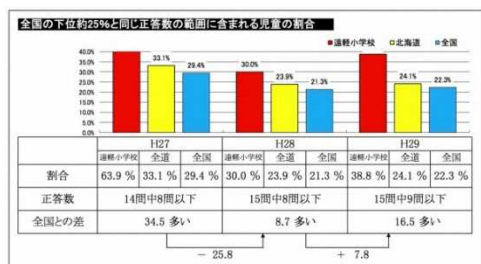
3. 実践研究の成果の把握・検証

(1) 道教委の「分析ツール北海道版」を活用し、全国学力・学習状況調査の詳細な分析を行った。

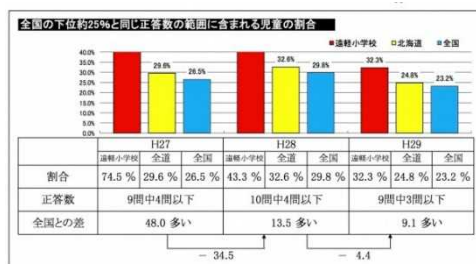
① 教科に関すること

- ・協力校における平成29年度全国学力・学習状況調査では、国語A B、算数A Bともに全国の平均正答率を上回ることができなかったが、平成27年度と比較し、国語Aで+14.5ポイント、国語Bで+22.8ポイント、算数Aで+16.1ポイント、算数Bで+3.0ポイント改善した。
- ・「全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合」については、平成27年度と比較して、国語Aでは25.1%、国語Bでは42.2%、算数Aでは14.0%減らすことができた。

〈国語A〉



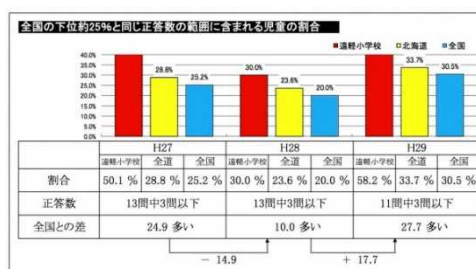
〈国語B〉



〈算数A〉



〈算数B〉



② 児童質問紙に関すること

- ・「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたか」の質問で、約8割の児童が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答しており、授業改善の取組の成果が見られた。
- ・「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、87.0%であり、平成28年度よりも0.1ポイント下回っている。平成28年度の全国と比較しても、同程度と言える。
- ・「国語の授業で意見などを発表する時うまく伝わるように話の組立を工夫している」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は61.2%であり、平成28年度と比較し、0.1ポイント上回っている。
- ・「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしているか」という設問に対し、4時間以上と回答をした児童の割合は、平成28、29年度とも25.8%であり、全国と比較しても高い傾向にある。
- ・「学校に行くのが楽しいか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、平成28年度は67.8%であるのに対して、平成29年度は77.4%であり、9.6ポイント上昇

している。

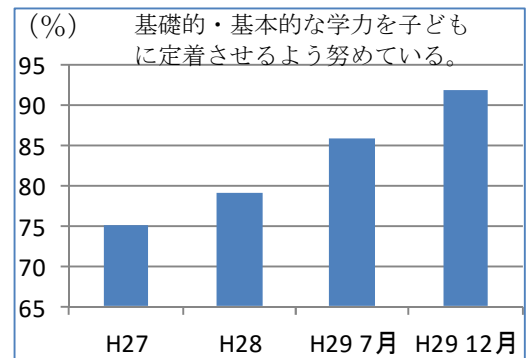
- ・「学校の規則を守っているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、93.5%であり、平成28年度と比較し、6.3ポイント上回っている。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、67.7%であり、平成28年度と比較し、3.2ポイント上回っている。

(2) 全国学力・学習状況調査及び「ほっかいどうチャレンジテスト」等の結果の分析・考察を行った。

- ・「ほっかいどうチャレンジテスト（国語、算数）の平均正答率の全道平均との差が2ポイント以内」という数値目標を設定した。
- ・協力校における平成29年度の結果は、第1～6学年の2回で、24教科中6教科で全道と同じもしくは全道を上回り、13教科で全道平均との差が1ポイント以内となり改善が図られた。
- ・全道平均を下回っている教科が多いことから、今後も基礎・基本の確実な定着を図る授業改善が必要である。

(3) 学校評価や児童アンケートの結果の分析・考察と実践成果の検証を行った。

- ・学校評価において、平成28年度は、13項目中「概ね達成」できたのは、1項目であったのに対し、平成29年度2回目（12月実施）では、全ての項目で「概ね達成」することができた。特に、「基礎的・基本的な学力を子どもに定着させるよう努めている」の項目では、平成28年度と比べて、肯定的な回答が12.7ポイント増加した。



- ・児童の授業評価では、「机上の学習用具の準備」や「分かりやすい発問、板書」などの項目で4ポイント中、平均3.8ポイントとなるなど、学習環境の整備や授業改善が進んでいる。

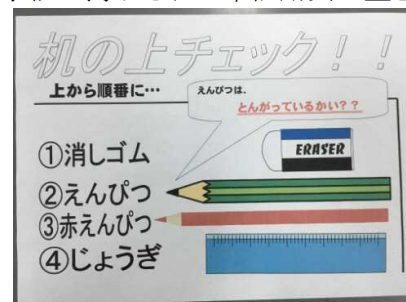
(4) 学習規律の徹底を重点とし、モデルとなる学習規律を確立する取組を推進した。

- ・学習用具の机上の配置や準備といった基本的な学習規律が身に付き、落ち着いた状況で授業に臨み、意欲的に学習するようになるなど、児童の変容が見られた。

【学習規律定着の重点】

- ・学習用具の精選
- ・児童の机上の整理

【全学級に掲示された筆記用具の整理図】



- (5) 授業研究や研究報告の評価及び課題の把握と改善方策の検討を行った。
- ・ 授業では、これまで授業に集中できていなかった児童も学習に向かう姿勢がよくなり、学習意欲の向上が図られた。
 - ・ 漢字や計算などの基礎的な学習内容の定着を図ることができただけでなく、苦手な内容を克服できたことで自信を深め、学習に意欲的に取り組む児童が増えた。
- (6) オホーツク教育局と連携して指導主事による定期的な学校訪問（コンサルティング）を実施し、授業参観や研究協議における、指導助言を通して授業改善の視点を明確にすることができた。
- (7) 学校教育局、オホーツク教育局と連携を図り、全学級で授業公開を実施し、町内各小中学校教員やP T A、地域企業関係者、教育委員会職員に、これまでの実践の成果を示すことができた。

【成果】

- ・ 全ての学年において、前年度と比較した教研式標準学力検査の偏差値が向上しており、基礎学力の定着が図られた。
- ・ 学習規律の統一について、教職員が取組の方向性を共有するとともに、学校全体で一貫した指導を行ったことにより、児童が安心して学習できる学習環境を整備することができた。
- ・ 教員の授業参観が定期的に行われるようになるとともに、研究協議において、共通の課題を再認識したり、改善策について焦点化を図ったりすることにより、全学級の授業改善が同一の視点で推進された。

4. 今後の課題

(1) 課題

- ① 学力の定着に向けて、家庭と連携した取組を充実する必要がある。
- ② 協力校における取組を町内全ての小・中学校で共有し、9年間を見通した学習規律や生活規律の確立を図る必要がある。
- ③ 研究課題の取組状況や成果の発信方法を工夫する必要がある。

(2) 手立て

- ① 全国学力・学習状況調査や「ほっかいどうチャレンジテスト」、教研式標準学力検査等の結果を経年比較し、課題を明確にするとともに、具体的な改善策を家庭と共有するよう学校教育指導を通して指導する。特に、ノート指導と家庭学習の関連を図り、家庭での学習習慣の確立に向けた取組を推進する。
- ② 学習規律や生活規律の統一を図るため、中学校区の小・中学校の教頭及び教務主任が協議したり、公開授業を参観し合ったりする場を設定する。
- ③ 研究成果の還元を図るため、成果を発表する場を設けるとともに、町内の全小・中学校の教員、教育関係者、地域住民に公開研究会等への参加を積極的に呼び掛ける。

(様式3)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の
重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成29年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名	北海道	番号	01
-------	-----	----	----

協力校名	遠軽町立遠軽小学校
------	-----------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 当初の課題

(1) 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた現状と課題

① 教科に関すること

- ・ 全国の平均正答率と比較し、国語Aが3.8ポイント、国語Bが8.1ポイント低く、算数Aが10.9ポイント、算数Bが6.2ポイント低い状況である。
- ・ 国語、算数ともに、記述式の問題の平均正答率が低い。

② 児童質問紙に関すること

- ・ 「国語の勉強は好きか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、38.7%であり、全国と比較し、19.6ポイント下回っている。
- ・ 「国語の授業の内容はよくわかるか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、64.5%であり、全国と比較し、16.2ポイント下回っている。
- ・ 「算数の授業の内容がよくわかるか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、83.9%であり、全国と比較し、3.7ポイント上回っている。
- ・ 「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしているか」という設問に対し、4時間以上と回答をした児童の割合は、25.8%であり、全国と比較し、17.6ポイント上回っている。
- ・ 「学校に行くのが楽しいか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、67.8%であり、全国と比較し、18.5ポイント下回っている。
- ・ 「学校の規則を守っているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、87.1%であり、全国と比較し、4.4ポイント下回っている。
- ・ 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、64.5%であり、全国と比較し、11.6ポイント下回っている。

2. 協力校としての取組状況

(1) 学校改善プランによる検証改善サイクルの確立

① 全国学力・学習状況調査の分析

調査終了後、学級担任・教務・教頭が自己採点を実施し、各教科及び児童質問紙調査の結果分析を行い、全教職員で課題を共有した。また、調査結果を踏まえ、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。

② 「分析ツール北海道版」の活用

分析ツールを活用し、詳細な分析を行うとともに、全国学力・学習状況調査問題の中で正答率の高かった問題と低かった問題を校内研修で解き、児童がつまづいている内容を確認し、授業改善と児童への指導について教職員の共通理解を図った。

授業改善の具体的な視点と数値目標に基づき取組を進めた。

【授業改善の視点】

- ・国語を窓口とした児童の話す・聞く能力の育成
- ・学習規律の徹底

【数値目標】

- ・全国学力・学習状況調査の平均正答率の全道平均との差を3ポイント以内にする。
- ・ほっかいどうチャレンジテストの平均正答率の全道平均との差を2ポイント以内にする。

③ 「ほっかいどうチャレンジテスト」の実施と分析

北海道教育委員会が定期的に配信している全てのチャレンジテストを、授業のまとめに位置付けて実施した。テストの結果については、「北海道学力向上Webシステム」等を用いて分析した。

④ 学校評価による検証

学校評価を年間複数回実施し、成果と課題を明らかにした。

⑤ 児童の授業評価による検証

児童の授業評価を年間2回実施し、成果と課題を明らかにした。

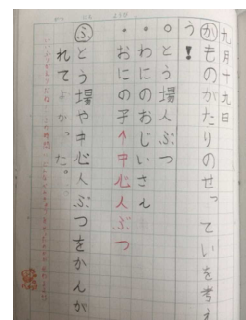
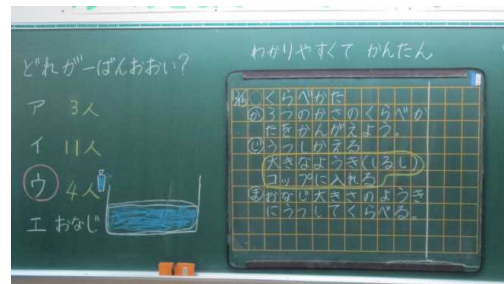
(2) 学習指導の充実

① 1単位時間の構成の見直し

1単位時間の中で、知識・技能を定着させるために、授業の構成の見直しを行い、次の3点を重点に取り組んだ。

【授業の構成の重点】

- ・学習課題とまとめの明記
- ・板書と関連付けたノート指導
- ・学習内容を振り返る活動の位置付け



授業冒頭で「何を学ぶのか(課題)」、学習後に「何を学んだのか(まとめ)」について教員と児童で確認することが重要であることから、毎時間全教科で学習課題とまとめを板書することとし、板書と関連付けたノート指導にも全校で統一して取り組んだ。

さらに、1単位時間の中に学習内容の「振り返りの時間」を確実に位置付け、学習のねらいを達成できたかを児童が◎○△で評価するとともに、児童自身の言葉で学習内容の振り返りを記述させることで学習内容の定着につなげた。

② 言語活動の充実

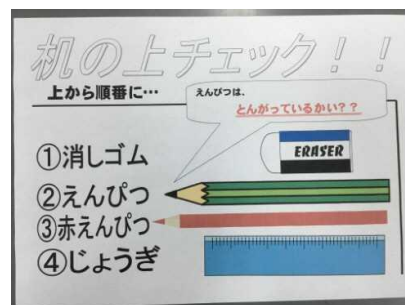
各種調査の結果から、全体的な傾向として、自分の考えを定められた字数で説明する問題などの記述式の問題の正答率が低いことや、国語科の「話す・聞く」領域において全国の平均正答率との差が大きいなど、自分の意見を相手に正しく伝えることに課題が見られることから、研修のテーマを「多様な手段を使って伝え合い、豊かに表現できる児童の育成」とし、言語活動を位置付けた授業改善を推進した。

③ 学習規律の確立

新年度に学級担任が替わると学習用具のきまりや発表方法などの学習ルールを新たに覚えることから学習が始まる実態が見られたことから、全教員で学習規律を見直すとともに、学習規律を定着させる取組として、次の2点を重点に指導した。

【学習規律定着の重点】

- ・学習用具の精選
- ・児童の机上の整理



また、学習に必要な用具や机の上に置くもの、置く位置などについて全教職員で共通理解を図り、指導内容を視覚化するなどして指導を徹底した。

また、指導に当たっては、各家庭にも学級通信や学級懇談会で呼びかけ、学校と家庭が一体となって取組を進めた。

④ 家庭学習・放課後学習の充実

個に応じた支援については、一斉授業における取組だけではなく、授業以外の取組として、次の3点を実施した。

【授業以外の取組】

- ・家庭学習の取組の充実
- ・放課後学習会の実施
- ・夏季・冬季休業の学習サポートの実施



授業内容との関連を図った宿題の提示を行い、家庭と連携した家庭学習の取組を進めた。また、中学校との連携を意識した家庭学習の手引を作成した。

放課後、基礎学力の定着を図ったり、苦手な内容を克服したりするための学習会を定期的実施した。

夏季・冬季休業中には、年間10日間、補足的な学習サポートを行い、全教員で指導を行った。

⑤ 「生活リズムチェックシート」の活用

児童の家庭での規則正しい生活リズムの定着を図るため、「生活リズムチェックシート」の活用を学校通信等を通じて、各家庭に呼びかけた。

⑥ 学校教育指導（コンサルティング）による指導主事の定期訪問

オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班の定期的な訪問において、指導主事によるコンサルティングや授業参観、研究協議における指導助言、ミニ講座の実施、授業におけるティーム・ティーチングの実施等を通じて、取組の充実を図った。

⑦ 先進校の視察

北海道教育委員会、遠軽町教育委員会の助言を受け、全国学力・学習状況調査において、「全国平均を上回っている」「前年度と比較して格段に伸びている」などの成果が現れている地域の小学校を視察し、各種学力調査等の細かな分析、学習規律の徹底、1単位時間の授業過程の統一、学び合い・伝え合いの実施について本校の取組に生かした。

【視察先】

- ・北九州市立永犬丸西小学校
- ・北九州市立若松中央小学校



(3) 成果の普及

① 公開研究会の開催

1年次の取組を踏まえ、平成29年12月15日にオホーツク管内の全小・中学校を対象にした公開研究会を実施した。全学級で授業公開、参加者との協議・意見交換を行い、2年次における成果と課題を明らかにするとともに、効果的な取組についての情報を発信した。

3. 取組の成果の把握・検証

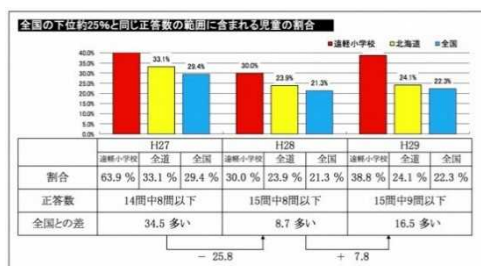
(1) 全国学力・学習状況調査による検証

【第6学年】

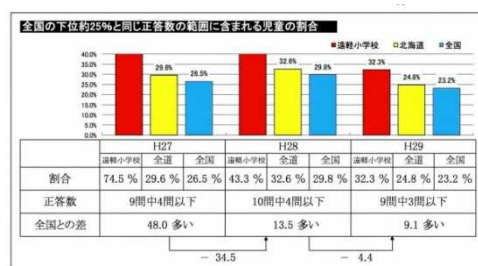
① 教科に関すること

- ・平成29年度全国学力・学習状況調査において、国語A B、算数A Bとも全国の平均正答率を上回ることではできなかったが、平成27年度と比較し、国語Aで+14.5ポイント、国語Bで+22.8ポイント、算数Aで+16.1ポイント、算数Bで+3.0ポイント改善した。
- ・「全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合」については、国語Aでは25.1%、国語Bでは42.2%、算数Aでは14.0%減らすことができた。

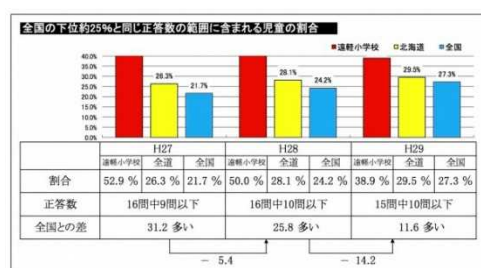
〈国語A〉



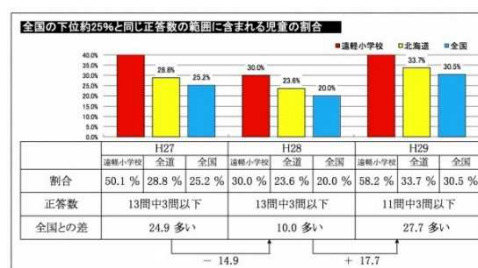
〈国語B〉



〈算数A〉



〈算数B〉



② 児童質問紙に関すること

- ・「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたか」の質問で、約8割の児童が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答しており、授業改善の取組の成果が見られた。
- ・「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、87.0%であり、昨年度よりも0.1ポイント下回っている。昨年度の全国と比較しても、同程度と言える。
- ・「国語の授業で意見などを発表する時うまく伝わるように話の組立を工夫している」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、61.2%であり、昨年度と比較し、0.1ポイント上回っている。

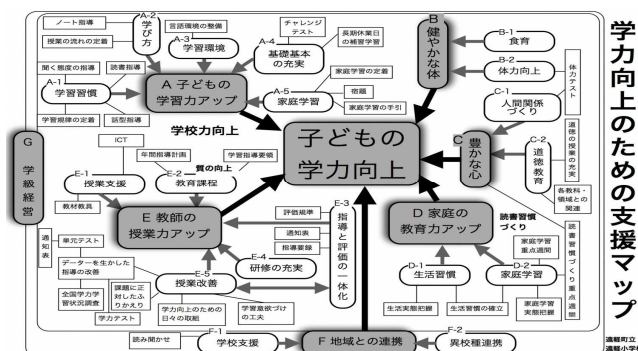
- ・「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしているか」という設問に対し、4時間以上と回答をした児童の割合は、平成28、29年度とも25.8%であり、全国と比較しても高い傾向にある。
- ・「学校に行くのが楽しいか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、平成28年度は67.8%であるのに対して、平成29年度は77.4%であり、9.6ポイント上昇している。
- ・「学校の規則を守っているか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、93.5%であり、平成28年度と比較し、6.3ポイント上回っている。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか」という設問に対し、肯定的な回答をした児童の割合は、67.7%であり、平成28年度と比較し、3.2ポイント上回っている。

【第5学年】

- ・教研式標準学力検査の結果については、平成27年度から平成29年度までの3年間の同学年の偏差値を比較すると、国語・算数ともに毎年向上している。国語においては、全国平均を上回っている。
- ・平成29年度の算数においては、5段階評価で、全ての児童が2以上となり、個に応じた指導の成果が見られた。

【学校全体として】

- ・全ての学年において、前年度に比べると教研式標準学力検査の偏差値は上がっており、基礎学力が身に付いてきていると判断できる。
- ・学習規律や授業過程の統一など全校的な取組を行うことで、児童が安心して学習できる基盤が確立された。
- ・教員が互いの授業を参観し合うことで、共通の課題や改善の方策を確認することができ、全校で協働的に授業改善を推進した。



(2) 「チャレンジテスト」による検証

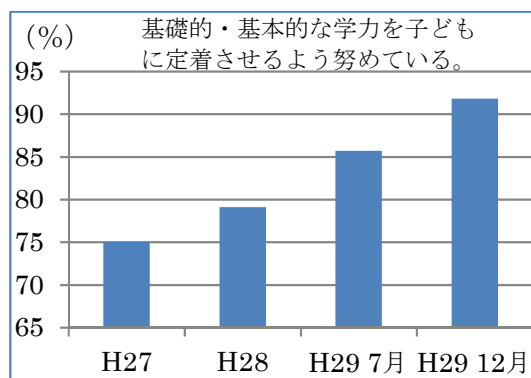
- ・「ほっかいどうチャレンジテスト（国語、算数）の平均正答率の全道平均との差が2ポイント以内」という数値目標を設定した。
- ・平成29年度の結果は、第1～6学年の2回で、24教科中6教科で全道と同じもしくは全道を上回り、13教科で全道平均との差が1ポイント以内となり改善が図られた。
- ・全道平均を下回っている教科が多いことから、今後も基礎・基本の確実な定着を図る授業改善が必要である。

(3) 学校評価、児童の授業評価等による検証

- ・学校評価において、平成28年度は、13項目中「概ね達成」できたのは、1項目であったのに対し、平成29年度2回目（12月実施）では、全ての項目で「概ね達成」することができた。

特に、「基礎的・基本的な学力を子どもに定着させるよう努めている」の項目では、平成28年度と比べて、肯定的な回答が12.7ポイント増加した。

- ・児童の授業評価では、「机上の学習用具の準備」や「分かりやすい発問、板書」などの項目で4ポイント中、平均3.8ポイントとなるなど、学習環境の整備や授業改善が進んでいる。



(4) 授業公開等による検証

- ・授業では、これまで授業に集中できていなかった児童も学習に向かう姿勢がよくなり、学習意欲の向上が図られた。
- ・漢字や計算などの基礎的な学習内容の定着を図ることができただけでなく、苦手な内容を克服できたことで自信を深め、学習に意欲的に取り組む児童が増えた。

4. 今後の課題

(1) 活用力の育成

基礎的な学習内容の定着が図られたことにより、低位層の学力の児童の割合が少なくなったが、教研式標準学力検査の結果から、観点別学習評価において、「A」に該当する児童がいない学年が多いことから、学習したことを効果的に活用する力の育成を図る必要がある。

(2) 授業における学習課題や学習過程の質の向上

本時の目標を達成するために適切な学習課題や児童が学習課題を自ら見付けられる学習課題の提示方法を工夫するなど、学習課題や学習過程の質の向上を図る必要がある。

(3) 全教科・領域における言語活動の充実を意識した授業づくり

「的確に表現する力」を育成するために、平成29年度より3か年計画で研修課題を「多様な手段を使って伝え合い、豊かに表現できる児童の育成」と設定し、全教科・領域においての理論・実践研究を行う必要がある。

(4) 家庭学習の取組の充実

日常の授業と連動した宿題を位置付け、学習内容の定着と学習意欲の向上を図るとともに、家庭と連携した「自主学習」の取組を充実させることで、各学年に設定した目安の時間の達成にとどまらない質的な向上を図る必要がある。